

はじめに 「保育の歴史とこれから」について

令和元年 10 月からの幼児教育・保育の無償化により、当面は保育需要の増加が見込まれています。一方、将来は少子高齢化の進展に伴い、区の児童人口は減少していきます。子どもの心身の健やかな育成のためには、多様な教育・保育サービスを選択できる環境づくりや、持続可能なサービスの提供が不可欠です。

本書は、保育現場を担う区が、目先のことだけに捉われることなく、保育サービスについて保育制度の歴史を振り返るとともに、国・東京都・特別区の待機児童対策を取りまとめ、将来の子どもの人口推計と保育需要の試算を踏まえながら、長期的な視点に立って、今後の保育サービスを考えるための資料です。あわせて保育の質の向上や子育てのあり方に係る検討・議論の状況に加え、参考として諸外国の保育制度と取組状況も紹介しています。

本書の構成は以下のとおりです。

第 1 章：保育所・幼稚園・学童クラブに係る保育制度の歴史

第 2 章：保育所および学童クラブの待機児童対策

第 3 章：今後 30 年における練馬区の子ども（0～11 歳）の人口推計

第 4 章：今後 30 年における練馬区の就学前（0～5 歳）および小学生児童（6～11 歳）の保育需要の試算

第 5 章：保育・学童保育の質に係る検討・議論

第 6 章：子どもの課題や子育てのあり方に係る検討・議論